

## 計算社会科学研究センター(CCSS) ファクトブック (強み・特色)

### I.他大学や他学部などにはない独自性 (強み)

計算社会科学は、近年急速に発展しているビッグデータや計算技術に基づく「新しい社会科学」である。オンライン上で取得可能なビッグデータ、コンピュータ・シミュレーション、ネットワーク分析等が主な分析ツールで、現在世界的に急速に発展している。本センターは国内初(かつ唯一)の計算社会科学に特化した研究センターであり、独自性の高いことは言うに及ばない。

神戸大学計算社会科学研究センターでは、計算社会科学に特化した世界初の査読付き学術雑誌「Journal of Computational Social Science」(以下 JCSS) を刊行しており、2018年の創刊から現在まで9冊発行し150本以上の論文を掲載している。JCSSの編集委員長は、当センター長・教授上東貴志が務め、世界中から多数の論文が投稿されており、Emerging Sources Citation IndexとしてWeb of Scienceに収録されている。計算社会科学研究の発表の場として既に国際的に広く認識されており、今後も優れた研究成果を世界へ発信する場を提供していく。(2018年 Vol. 1-1. 1-2, 2019年 Vol. 2-1. 2-2, 2020年 Vol. 3-1. 3-2, 2021年 Vol. 4-1. 4-2, 2022年 Vol. 5-1)



### II.最近における特記事項

#### 令和3(2021)年度

- ・令和3(2021)年12月5日 『神戸大学経済経営研究所ウェビナー 藩札から銀行へ～渋沢栄一と明治の金融革命～』、上東貴志センター長がモデレーターを務め、オンラインで開催。
- ・令和4(2022)年2月28日～3月1日『第1回計算社会科学学会大会(CSSJ2022)』ZOOMによるオンラインで開催。
- ・『Journal of Computational Social Science』Web of Science (Emerging Sources Citation Index)に収録される。今後、新規Associate Editorのリクルートや特集号発行等を計画している。
- ・『Journal of Computational Social Science』(Vol. 4-1. 4-2)2冊刊行。

# 令和3（2021）年度の TOPICS

## ・YouTube チャンネル公開

### 『CCSS School on Computational Social Science』

計算社会科学は、コンピュータサイエンスや社会科学など様々な分野と深くかかわる異分野共創研究分野である。計算社会科学がどのような研究分野なのか、興味のある学部生や研究者を主な対象としてYouTube 動画を作成し、『計算社会科学入門』（2021年1月発行）12章のうち9章の動画を公開した。

今後も、日本語・英語による多数の動画の制作を計画している。



## ・「スーパーコンピュータ京」展示

理化学研究所から譲渡されたスーパーコンピュータ京の1筐体をフロンティア館3階において「神戸大学と『京』」と題して2021年4月先行展示。翌2022年に正式公開。経済経営研究所経営機械化展示室では国産初のコンピュータを展示していることから、本学キャンパス内にて国産最古と最新のコンピュータを間近で見学することが可能になる。



スーパーコンピュータ京 展示スペース



経営機械化展示室



展示パネル

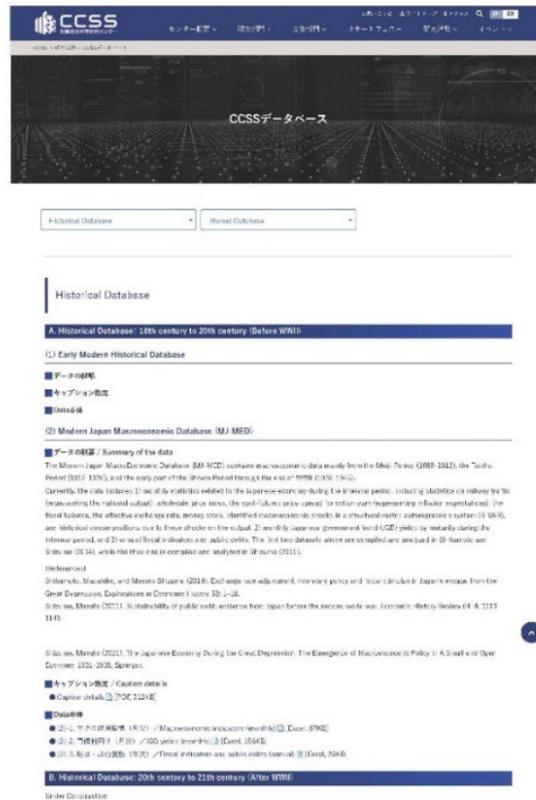
## ・データベースの構築と公開

計算社会科学は良質のデータを得て、その力を発揮する。

当センターでは、重要なデータを独占することなく、広く共有することで、計算社会科学の裾野を広げることを使命としている。その象徴とも言える試みが、研究データベースの公開であり、**Historical Database** と **Market Database** という 2 本の柱からなる。

前者では、18 世紀から 20 世紀（第二次大戦前）にかけての歴史的数値データを公開している。具体的には、①江戸時代中期以降における米価、金銀比価（金貨と銀貨の交換レート）、天候、経済的イベント、自然災害などを日次ベースで整理した近世経済データベース（**Early Modern Historical Database**）と、②近代日本に関するマクロ経済指標（月次）、国債利回り（月次）、財政・政府債務（年次）のデータである。①は、江戸時代を代表する三井家の大坂両替店が遺した記録を元に復元したデータベースであり、日次レベルの頻度で江戸時代のマーケットデータを公開するものとして唯一無二である。②は、第 1 次大戦後から高橋財政期におけるマクロ経済ならびに金融市場の詳細な分析に利用可能な月次データと、明治・大正・昭和戦前期の財政の維持可能性を検証するための年次データからなる。歴史研究者の中には、貴重なデータを抱えてはいるが公開する場がない（公開の仕方が分からない）といった事情を抱えている方も少なくない。今後も、計算社会科学研究に資する歴史的数値データは、積極的に採録、公開していく予定である。

後者は、『地域別の市場データと消費者プロファイルの日次ベースで傾向整理したデータベース。ソーシャルメディア「SNS」（ツイッターや Google レビュー）の話題と感情のデータ』である。



### 令和 2（2020）年度

- ・ 国立大学附置研究所センター会議に入会。会員となる。
- ・ 「神戸大学基金 計算社会科学研究センター研究支援事業募金」の設置。
- ・ 計算社会科学会設立に貢献。学会の前身である「計算社会科学研究会」の発足から研究会の活動に協力し、「計算社会科学会」設立へと導く。
- ・ 機能強化のため、新たに共同利用・共同研究支援部門を設置。
- ・ 国立研究開発法人科学技術振興機構 未来社会創造事業 探索加速型「超スマート社会の実現」領域 「社会リスク可視化システム、及び社会リスクに適切に対応する意思決定システム」

ムの開発」(代表機関：神戸大学計算社会科学センター 共同研究機関：豊橋技術科学大学、東京大学、東京工業大学、東北大学)が採択される。

- ・令和3(2021)年2月27日～28日『CCSS School on Computational Social Science 『計算社会科学入門』』ZOOMによるオンラインで開催。
- ・2月27日～28日『第5回計算社会科学ワークショップ(CSSJ2021)』ZOOMによるオンラインで開催。
- ・『Journal of Computational Social Science』(Vol.3-1.3-2)2冊刊行。内1冊は、COVID-19の特集号「Special Issue on Misinformation, Manipulation and Abuse in the Era of COVID-19」である。

#### 平成31(令和元/2019)年度

- ・平成31(2019)年6月20日～22日『CCSS School on Computational Social Science』神戸大学六甲台フロンティア館プレゼンテーションホールで開催。
- ・令和2(2020)年1月6日『CCSS Workshop on Computational Social Science』神戸大学経済経営研究所会議室で開催。
- ・1月9日『計算社会科学センター西村和雄教授瑞宝重光章受賞記念講演会』神戸大学出光佐三記念六甲台講堂で開催。
- ・1月30日『CCSS Workshop』神戸大学経済経営研究所調査室で開催。
- ・2月28日～3月1日『CCSS School Computational Social Science』神戸大学六甲台フロンティア館プレゼンテーションルームで開催(YouTube配信)。
- ・2月28日～3月1日『第4回計算社会科学ワークショップ(CSSJ2020)』神戸大学六甲台フロンティア館プレゼンテーションルームで開催(YouTube配信)。
- ・『Journal of Computational Social Science』(Vol.2-1.2-2)2冊刊行。

#### 平成30(2018)年度

- ・平成30年4月神戸大学基幹研究推進組織となる。
- ・計算社会科学の国際的専門学術誌『Journal of Computational Social Science』を創刊。上東貴志センター長が初代編集委員長に就任。(Vol.1-1.1-2)2冊刊行。
- ・9月12日『100周年記念連続シンポジウム「幸せの計り方」』神戸大学出光佐三六甲台講堂で開催。
- ・10月25日『Network Science Workshop for CCSS』神戸大学六甲台フロンティア館プレゼンテーションホールで開催。
- ・10月26日『Kick-off Conference for CCSS』神戸大学先端融合研究環統合研究拠点コンベンションホールで開催。

#### 平成29(2017)年度

- ・平成29年3月経済経営研究所内の部局内組織として創設。